

部落。龜尾記に、この邑名は既に天正八年に見える。茶店が多く、名物の團子があり、又常に笹粽を製すると記するが、その茶店は明治の中期から廢した。

ヤナギハラ 柳原 能美郡輕海郷に屬する部落。郷村名義抄に、昔時この村領に大なる柳があつたから邑名となつたとある。

ヤナギハラ 柳原 石川郡五ヶ庄中(部落名)の垣内であつた。昔は金澤千日町の街尾からこの所まで柳が多く沿道に植ゑられてゐた。もと藤内頭の支配に屬する札持の乞食が小屋を作つて雨露を凌いで居る所であつた。

ヤナギハラゴゼン 柳原御前 前田綱紀の養女宛姫は鶴岡侯酒井忠密に嫁し、柳原御前と呼ばれた。又神田御前ともいふ。

ヤナギハラノコジキ 柳原の乞食 石川郡犀川の下流左岸柳原の地にゐた所謂小屋持乞食で、妻子をも有し、柳原乞食とも河原乞食ともいはれた。みご帯・みご草履等を製して金澤の市中に行商し、又乞食に出る時は莫薩・かますを背負ふを規定の如くにしてゐた。

ヤナギマチ 柳町 金澤の町名。昔は前田圖書の邸地邊より白鬚持明院或は眞宗正覺寺、禪宗燈明庵など皆柳町の惣名中に含まれてゐた。今はその區域が縮少して居る。町名は柳樹があつたから起つたのであらう。

ヤナギマチ 柳町 石川郡中奥郷に屬する部落。

ヤナゼ 柳瀬 羽咋郡邑知院内粟生保に屬する部落。柳瀬の名は享祿四年七月の一宮惣分目納帳に見える。

ヤナゼテ 柳瀬出 羽咋郡邑知院内粟生保

に屬する部落。村名由來書に、『柳瀬出村は慶長十七年柳瀬村より出村致候に付、柳瀬出村と唱申由申傳候。』とある。

ヤナダクニサダ 梁田邦貞 字は猷吉、石廳と號した。武州の産。石島筑波に學び、詩を能くし、亦天文曆算に通じてゐた。加賀藩に寓すること六年であつたが、遂に仕を得ずして去つた。寶曆前後の人。

ヤナミ 矢波 鳳至郡諸橋郷に屬する部落。承久三年注進の能登國田數目録には、『矢並村四段』と見える。能登名跡志に、『矢波村浦傳也。云々。寺田橋とて長十二間あり。脇に廣福寺といふ。禪宗あり。村端に法螺穴とて不思議なる洞あり。氏宮山王は村中に在りて、龜形の山にて風景也。此往來に塞の河原とて、子供の多く泣聲夜々する所あり。地藏堂ありて、小石多く積みてあり。』又『矢波の散村に山手一里許に猪の平といふあり。此村に、音無川といふに薬水流れて、此水を汲み沸かし用れば、浮腫の病治すること奇妙なり。則行基菩薩の作の觀音あり。靈驗あらたなり。』と記する。

ヤナミ 矢並 ↓ヤナミ 矢波。

ヤナミ 屋波 長家家譜に、天正六年長連龍の戦つた所々のうちに、棚木・鶴川・屋波と記する。屋波は鳳至郡矢波の誤であらう。

ヤナミガハ 矢波川 ↓テラダガハ 寺田川。

ヤナミヤマ 矢波山 鳳至郡矢波部落の東北方に在る山。高さ一三六米。地質第三紀層。

ヤネ 屋根 金澤の城下に於ける人家の屋根は、柿葺と批板葺と藁葺との三種があつた。人持以上の邸は檜葺柿葺、足輕・小者な

どは藁葺で、その中間の平士以下歩以上、及び町家などは批板であつた。批板は草槓又は杉材を長さ六〇樞許に切り、厚さ〇・七樞、幅一〇樞乃至一五樞の板に削いだものを並べ、横棧を置き、川石で押さへた。

ヤノサクヘイ 矢野策平 諱は察倫。本多氏の臣で祿五十石を受け、性實直にして恭謹、事に臨んで果斷、箕裘を紹いで武技を能くし、兼ねて筆札に巧であつた。明治四年十一月廿三日同志と共に、故主本多政均の仇菅野輔吉を討ち、五年十一月四日自裁を命ぜられた。享年四十六。

ヤノシヨザエモン 矢野所左衛門 尾張の人。前田利常夫人の傳として來り、後藩臣となつて二百五十石を受け、諸士系譜六百石に作る。大坂再役に出陣し、五月七日黒門内に討死した。堺武左衛門名跡を襲ぎ、子孫藩に世襲する。

ヤノネバシ 矢ノ根橋 金澤橋梁記に、『矢ノ根橋、卯辰八幡前也』とある。今の宇多須神社前に在つたのであるが、現時は境内に在るものを稱してゐる。

ヤハギ 矢作 石川郡富樫庄に屬する部落。廻國雜記に、『こよひは矢はぎの里といへる處にやどりけるに曉の月をながめて、こよひしも矢はぎの里にゐてぞ見る夏も未なる弓張の月。』とある。寶永誌には、矢作村領の内に殿の土居があつて、富樫の家臣藤岡伴當といふ者が居たと記し、石川訪古遊記に、この地中古矢人の居た所であるとする。

ヤハズジマ 矢筈島 ↓カリマタジマ 雁股島。

ヤハタ 八幡 能美郡輕海郷に屬する部落。

邑名は八幡宮あるによる。

ヤハタ 八幡 石川郡河内庄に屬する部落。三宮古記康永四年流鏑馬式に八幡在家人云々と載せてある。郷村名義抄に、古へ春日村と云うたが、鎌倉から鶴岡八幡を勧請して後八幡村となつたとあるが、その春日村と稱へたことは確實でない。村の東南方に佛大寺屋敷の遺蹟がある。又刀の目釘若しくは弓の材料に供する唐竹藪があつて、藩有の御林であつた。加賀古跡考に、この竹林は天正中高島定吉が山城八幡の竹を移植したに起り、今は専ら弓を製するに用ひるとある。俗語に『八幡三宮の竹切るときは一里普する二里響く。』

ヤハタ 八幡 河北郡五ヶ庄に屬する部落。

ヤハタ 八幡 羽咋郡富木院に屬する部落。

ヤハタ 八幡 鹿島郡八幡新庄に屬する部落。↓シンジヨウ 新庄(鹿島)。

ヤハタ 八幡 鳳至郡櫛比庄に屬する部落。

ヤハタガハ 八幡川 鹿島郡澤野のさんたん谷内から出で、大田領の海に入る。流程四軒許。

ヤハタガマ 八幡窯 能美郡八幡の土山に起した陶窯で、天保八年若杉安右衛門の經營した若杉窯が火災に罹つた爲、こゝに移築したものである。規模甚だ廣大であつたが、昌右衛門に至りて衰兆に傾き、明治八年に廢窯した。

ヤハタサス 八幡産主 羽咋郡富木院に屬する部落。

ヤハタシンジヨウ 八幡新庄 鹿島郡に在つて、承久三年注進の能登國田數目録に、『八幡新庄壹町』と見える。後世亦八幡新庄がある。